

加美町総合戦略審議会 会議録 (第9回)

1. 開催日時 平成29年6月30日(金) 午後2時40分～午後4時15分
2. 開催場所 加美町役場3階 第1会議室
3. 出席委員 11名
風見 正三, 大場 幸, 後藤 利雄, 跡部 香名
伊藤 英一, 桑折 信也, 寺川 成子, 宮内 佳樹
伊藤 嘉則, 清野 仁子, 岸田 紗季
4. 欠席委員 3名
小網 大輔, 中村 威, 菅原 尚孝
5. 傍聴者 なし
6. 加美町(事務局) 3名
吉田 恵 副町長
熊谷 和寿 企画財政課長, 菅原 敏之 主査
7. 会議の概要 - 次 第 -

3. 委員自己紹介

前委員の任期満了により、今回(第9回)から審議会の構成が新しくなりました。前委員から8名の方に留任をいただき、会長・副会長には引き続き風見委員、大場委員に就任いただきました。

また、新たに後藤利雄委員(JA)、跡部香名委員(商工会)、伊藤英一委員(加美町観光まちづくり協会)、桑折信也委員(中新田高校)、宮内佳樹委員(国立音楽院宮城キャンパス)、岸田紗季委員(地域おこし協力隊)の6名を迎え、産官学金労言及び一般住民の代表からなる14名の審議会構成となりました。

なお、委員の任期は、平成31年3月31日までとなります。

4. 議 事

審議会の構成が新しくなったことにより、事務局から加美町版の総合戦略の概要及び審議会の機能について説明しました。

その後、平成28年度地方創生関連事業の検証として、加美町版総合戦略事業におけるKPIの進捗状況、平成28年度地方創生関連交付金事業の実施内容を報告し、各委員による意見交換を行いました。

委員からは、加美町の取組みについてはマスコミ等も取り上げていることから漠然としたものは理解しているが、まだまだその内容が町民レベルまで下りていない。対外的な取組みが中心となっており、対住民に目が向いていないように感じる。国立音楽院など少しずつ成果が進んできているため、住民意識を向上させる取組みを検討したいとの意見を頂戴しました。

5. その他

次回の審議会については、10月～11月を目途に国立音楽院宮城キャンパスの視察等を実施する予定です。

●第9回総合戦略審議会におけるキーワード

- ・団体間連携の強化（移住・結婚事業、商品開発・販路拡大）
- ・地域住民への周知と啓発

●次回以降の開催日時と内容

- ・第10回審議会 日時：10月～11月を予定
内容：国立音楽院宮城キャンパスの視察等

□ 議事内容

— 午後 2 時 3 0 分 開会 —

熊谷 課長： 本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。ご案内の時間を少し過ぎましたが、只今より「第 9 回加美町総合戦略審議会」を開催いたします。次第では会長あいさつとなっておりますが、到着次第ごあいさつをいただきたいと思ひます。

本日の審議会ですが、委員さんの任期の関係で交代がございました。今回委員 14 名の内 6 名の方に新たに委員をお願いいたしました。新たな委員による最初の審議会でございます。ただいま会長が到着いたしました。到着早々大変恐縮ではあります。が、会長よりごあいさつを頂戴したいと思ひます。よろしくお願ひします。

風見正三 会長： みなさんこんにちは。今年度最初の会議ではあります。が、遅れてしまいました。申し訳ありません。私の方では新しい学群というのができ、また大学も 20 周年ということで何かとバタバタしております。学長も代わり幹部も代わり、私も昨年からは事業構想学部長を務めていたが、新しい事業構想学群の頭と事業構想学部の頭と研究科の頭の 3 つやっております。今度 8 月 9 日に 20 周年記念のシンポジウムがありますので、この加美町にも大変お世話になっております。が、皆さまに是非おこしいただきたく、私も登壇して事業構想の展望とかを話す予定であります。ただ、学生も 20 周年となって思ひますが、本当に地域の役に立つ大学になりたいということで、色々決意を固めているところであります。加美町は猪股町長はじめ、中新田とも長年お付き合いしているのですが、薬菜のやくらいわさび焼きそばというのを勝手に作りテレビでも放映され話題にもなり、B 級グルメにならないかと思ひながら、今年も色々な会議にお邪魔したいと思ひております。

それと、私は塾を開設しまして、塾のメンバーがこの辺にもいますがツリーハウスをつくるプロジェクトをやっております。それを副町長はじめ色々話をしているのですが、皆さんも色々プロジェクトを抱えているかと思ひますが、そういう意味では地域の方たちがどんな未来を描くかということだと思ひます。そういう意味でもこの総合戦略とは非常に重要な意味がありまして、いよいよ動き出し、進捗も含めて説明等があると思ひます。我々審議会のメンバーというのは俯瞰的かつそれぞれの専門的な立場で政策に対する貴重な意見を期待しているところであります。短い時間ではあります。が、皆さん一人ひとりにお話を伺えればと思ひます。素晴らしい加美町になりますように今日もしっかりと議論していきたいと思ひます。今日もよろしくお願ひいたします。

熊谷 課長： ありがとうございます。それでは先ほども申し上げましたが今回委員の任期の関係で 14 名の内、6 名が交代されました。初めに委員の皆さまに自己紹介をお願いしたいと思います。風見会長から時計まわりにマイクを回していただきたいと思います。

風見正三 会長： 宮城大学事業構想学部の風見と申します。専門は建築で、建築から広がっていき、まちづくりを、もっとよい町をつくりたいという思いにつながって来ました。加美町ではコミュニティビジネスの研修会、地域の人たちによる地域資源を活かした仕事づくり、景観を活かしたまちづくりなど、どのようにしたら良いかなどお手伝いをしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

大場 幸 副会長： この度、副会長に再任されました大場幸と申します。加美町教育委員会の教育委員長をやっております。よろしくお願いいたします。副会長ということで、風見先生の足を引っ張らないように一生懸命ジャッキアップしていきたいと思っております。武田信玄の言葉で、何事も一生懸命だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言いついであります。総合戦略審議会のメンバーとして一生懸命知恵を出していきたいですのでよろしくお願いいたします。

後藤利雄 委員： J A加美よつばの後藤と申します。昨年まで青年部担当の若い者が参加しておりましたが、若い者が色々と役職を兼務する関係で一番出やすいのは誰だということで、部長行って来いということでまいりました。先ほど、このサマーロックのチラシを見ていましたら、バッハはロックだったということで、なるほどねと思いました。朝のドラマのひよっこでもビートルズがやって来たとなっておりますが、ビートルズ世代には遠く及びませんがビートルズってなんのこっちゃということでフォークに憧れてギターを弾き始めましたらギターはFでつまづいて辞めて、その程度です。学生になって陽水と吉田拓郎ぐらいがフォークの神様だと思っていたら、岡林信康を知らないでフォークを語るなど言われまして、世代のはざまにいることを痛感させられる昭和 33 年生まれでございます。農協の中でも色々なことを変えなくてはならないと思っておりますし、姿勢改革委員会というのがあって農協が攻撃にあっておりますが変えるところは変える。しかし、今日の審議会の中でもあると思っておりますが田舎の良さというのはきちんと守っていかないといけないと思っております。そのようなことも含めまして今後ともよろしくお願いいたします。

跡部香名 委員： 加美商工会で経営指導員をしております跡部香名と申します。よろしくお願いいたします。昨年来大場がこの委員に参加しておりましたが、役場から女性の委員ということで私が参加することになりました。商工会はご存知のとおり、

色々とイベントをやっておりますが、異動も多く私も昨年の 4 月に赴任してまいりました。元々は大和町ですが、他の市町村を色々と見て回っております。何か委員会の中で参考になるものがあれば発言させていただきたいと思います。

伊藤英一 委員： 加美町観光まちづくり協会事務局長の伊藤でございます。本年の 4 月に着任し、4 回目の就職となっております。大崎市に 40 年ほど、大崎地域職業訓練校に 3 年ほど、昨年の 6 月から加美町役場の商工観光課で専門官と、今回で 4 回ほど就職させていただいております。風見先生には大崎市時代に行政改革等々で大変お世話になりありがとうございました。加美町観光まちづくり協会、商工観光課と一体となりながら地域住民、あるいは経営団体を如何にして加美町を盛り上げていくか色々と工夫してまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

桑折信也 委員： 中新田高校の桑折と申します。この春に中新田高校にまいりました。20 年ほど前にも 5 年間中新田高校に赴任しておりました、またこの加美町にお世話になることになりました。20 年ぶりに戻ってまいりましたが、今、中新田高校では加美町研究というのとインターンシップというのをやっております。その他には、中新田の商店街のにぎわいづくり委員会とも連携しながら活動しているところです。先日、その活動を進める中で猪股町長にも来校いただき 1・2 年生を対象に加美町で今どういう政策に取り組んでいるかということパワーポイントを使ってご説明いただきました。最後には、自ら作られた歌をギターを奏でながらご披露いただき、非常に生徒も盛り上がりました。本校は今年で 45 年を迎えておりますが開校以来、中新田・加美町という場所で育てられた学校であります。今後も町と一体となりながら学校を発展させていきたいと思っておりますので、是非この委員会を通して色々な所で連携していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

清野仁子 委員： 小野田ふるさとの味研究会の会長を務めております清野仁子と申します。加美町には素晴らしい景色、自然、人柄などこんなに良いところありますよとこれまでも色々と申し上げてまいりましたが、気づいたことや称賛したいことなどたくさんありますので、またこの席をお借りしてお話させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

寺川成子 委員： 雁原工業団地の中にあります株式会社精工宮城工場の寺川と申します。昨年から引き続き、今年もよろしく願いいたします。私の住まいは隣の大崎市ですがこの加美町の会社に入って 20 年を超えました。これまでも色々な町を見て来ていますが、この町が良いなと思うことがあって、役場の方や民間の方がこうやって交わる場所があるというのも素晴らしいことだと思っております。私も微力なが

ら労の立場として労働者が働きやすく、住みやすい町になっていくように少しでも力になればと思いますのでよろしくお願いいたします。

宮内佳樹 委員： 国立音楽院宮城キャンパスの宮内佳樹です。国立音楽院は今年の4月に上多田川に開校しまして町と一緒に音楽によるまちづくりということで、町を盛り上げていきたいと思っております。新参者ですがよろしくお願いいたします。

伊藤嘉則 委員： 大崎タイムスの伊藤と申します。昨年度から審議会の末席に加えていただいておりますが、会議の日程が取材等々と重なりまして本日が初参加となります。よろしくお願いいたします。新聞社というのは、伝える役割、取り分けローカル新聞社だと皆さんの身近な話題を取り上げて、町を盛り上げる、活気づいてもらう、そういったことが重要だと考えています。これまで参加できなかった分まで一生懸命頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

岸田紗季 委員： 岸田紗季と言います。昨年度から加美町に移住してきまして地域おこし協力隊として現在、小野田地区で農作業しております。出身は神戸で大学生の時に仙台に来て、学生時代は農学部で研究をしておりました。実際に研究ではなく農業をやりたいと思い加美町に移住してきました。移住者としての立場でしたり、就農希望の若者の立場として意見を述べさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

熊谷 課長： 続いて事務局から自己紹介を行います。

- 吉田副町長、熊谷課長、菅原主査自己紹介 -

熊谷 課長： 本日は、菅原委員から欠席の報告、中村委員、小網委員から遅参の連絡を受けております。なお、委嘱状につきましては予め皆様の机の上に置かせていただいておりますのでよろしくお願いいたします。（その後、資料の確認）

それでは、会議を進めさせていただきます。早速、議事に移ります。ここからは風見会長を座長として議事の進行をお願いいたします。

風見正三 会長： 議事に入ります。総合戦略審議会について及び平成28年度地方創生関連事業の検証について事務局から説明いただき、その後皆さんからご意見を伺いたいと思っております。それでは事務局お願いします。

菅原 主査： 企画財政課の菅原と申します。よろしくお願いいたします。

今回新たに6名の方に委員に就任させていただきました。

まずはじめに、総合戦略審議会の運営と加美町版の総合戦略について簡単にご説明をさせていただきます。

次第の裏面をご覧ください。本審議会は、平成 27 年 10 月に策定しました加美町の地方創生のビジョンと施策の方向性を示した加美町版総合戦略の検証と新たな施策の方向性について審議していただく機関となっております。委員の任期は 2 年で、皆さまの任期は平成 31 年 3 月までとなっております。審議会の委員は、産官学金労言の有識者と一般住民の代表の計 14 名で組織されており、会長に宮城大学の風見先生を、副会長に加美町教育委員会教育委員長の大場幸先生にお願いしているところであります。審議会の会議と議事録は原則公開となっており、加美町 HP で議事録や資料を公開しております。審議会の委員には謝礼として 1 回あたり、3,400 円が支給されます。今回、皆さまのお手元に口座の調書を配布しておりますので、ご確認いただき変更の有無に関わらず来週中に事務局までご提出方よろしくお願いたします。なお、変更なしの場合は、口頭でも構いません。先の審議会では所属団体の意向等により謝礼を辞退された方もいらっしゃいましたので、ご確認いただき、お手元の辞退届にて来週中に提出いただきますようよろしくお願いたします。

次に、加美町版総合戦略の概要について、おさらいを兼ねてご説明いたします。資料は事前にお配りしていただきました A3 横カラー刷りの資料をご覧ください。皆様もご存知のとおり、本町は人口減少傾向にある自治体であり、国立社会保障人口問題研究所が推計した約 50 年後の人口は 11,000 人となっております。特に 20 歳から 39 歳の女性の割合は全人口の 1 割未満となっており、まさに危機的な状況が予想されております。町では危機的状況の打破に向け、本町への移住定住を促し、子育てしやすく、住民幸福度が高いまちづくりに向けた加美町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、将来人口 15,000 人の確保に向けて事業を展開しているところであります。

加美町版の総合戦略は、メディア戦略を柱とする情報提供を基本姿勢に打ち立て、消費者行動に訴求する広報戦略を元に、「里山経済の確立」、「健幸社会の実現」、「子ども・子育て応援社会の実現」の 3 つの基本目標を設定しております。

基本目標 1 の里山経済の確立は、エネルギー・食料・木材などの地産地消を進め、地域内における雇用やお金の循環を生み出すとともに、観光資源を活用した人とお金の流入するまちづくりを進めるもので、平成 31 年度における重要業績

指標 KPI を年間バイオマス発電量 72 万 kWh、地元木材利用民間住宅件数 50 件、年間観光入込客数 130 万人、起業者育成支援事業認定件数 15 件を掲げております。

基本目標 2 の健幸社会の実現は、誰もが健康で心豊かに暮らせる社会を目指し、生きがいを感じられるとともに、歩きたくなる、歩いて用事が足せるまちづくりを推進するもので、平成 31 年度における重要業績評価指数 KPI を小学生の肥満傾向児の割合の削減、コミュニティビジネス創出件数 5 件、町情報発信 facebook「いいね」件数平均 1,000 件、平均寿命と健康寿命の差の改善を掲げております。

基本目標 3 の子ども・子育て応援社会の実現は、実効性のある少子化対策に取り組む、町を挙げて子どもや子育て世帯を応援するとともに、子どもたちが夢や目標を持ち、生きる力を身に付け、自己実現できることで、たくさんの子どもたちの笑顔に会えるまちづくりを進めるもので、平成 31 年度における重要業績評価指標 KPI を将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合の向上、待機児童の解消、国際交流活動への参加児童生徒数 150 人、ふるさと回帰支援センターを利用した UIJ ターン数 10 人を掲げているところです。

これらの KPI の達成に向けて、その右に記載あります具体的な施策を示した上で、各担当課において個別事業を展開しているところであります。その個別事業の状況について記したものが、事前配布しておりました「加美町まち・ひと・しごと創生総合戦略 - 平成 28 年度事業実施状況」であります。

資料は、その平成 28 年度事業実施状況をご覧ください。今回の審議会については、資料内容が膨大になることから事前に配布した上で、担当課への照会の都合上、個別事業の実施状況に関する質問については事前受付として皆さまにご案内しているところであります。今回、特段のご質問がありませんでしたので、KPI の達成に向けた過程である個別事業の説明は割愛し、各基本目標に対する KPI の進捗状況についてのみご説明をさせていただきます。資料は 17 ページをお開き願います。下段の重要業績評価指標の進捗状況をご覧ください。

基本目標 1 里山経済の確立に関する重要業績評価指標の進捗状況を記載しております。1 つ目は、年間バイオマス発電量について。目標 72 万 kWh に対する平成 28 年度の進捗状況は 0 となっております。実績値の要因として、平成 28 年度は事業化に向けた構想策定と普及啓発、実証試験に取り組み発電設備の整備に

は至っていないためとなっております。2つ目は、地元木材利用民間住宅件数についても、事業未実施のため実績値は0となっております。3つ目の年間観光入込客数については、現況値を下回る約119万人となっております。現況値よりも下回っていることもあり、交流人口増に向けた政策の実施について関係団体で共通認識を持って取り組む必要があると担当課で分析しております。4つ目の起業家育成支援事業認定件数については、累計3件となっております。制度については、設立当初より相談件数が減少していることから、起業家を育成できる支援策の拡充や体制の充実を図る必要があると担当課で分析しております。

次に、基本目標2の健幸社会の実現に関するKPIの進捗状況についてご説明させていただきます。資料は27ページをお開きください。下段の重要業績評価指標の進捗状況について。まず1つ目、小学生の肥満傾向児の割合についてですが、こちらは大変申し訳ありませんが、資料の訂正をさせていただきます。平成28年度の実績値についてですが、男子は17.23%、女子は14.22%となっております。実績値の要因について、担当課では、成人肥満割が県平均よりも高い状況から、大人の生活習慣が子どもに影響を及ぼしていると分析しております。2つ目のコミュニティビジネスの創出件数については、0件となっており、地域づくり活動への取組みが初期段階であり、コミュニティビジネスまでは至っていないと現状把握をしております。3つ目の町情報発信facebook「いいね」件数については、2月に開設しました「加美町まちづくり連絡会議」のページに関する「いいね」が294件となっております。なお、こちらも実績値の要因について記述に誤りがあり、担当課ではまだ開設2ヶ月であり、実績値としては低い結果となっていると分析しております。大変申し訳ありません。4つ目の平均寿命と健康寿命の差の改善については、男性が2.01年、女性が4.29年と差が広がっております。この要因については高齢者福祉施策だけではなく、若い頃からの食生活をはじめとする生活習慣、気候、住環境など様々な要因が考えられると担当課では分析しており、なお、気候の字に誤りがありましたので、天候の方の気候に修正をお願いします。

続いて、基本目標3の子ども・子育て応援社会の実現に関するKPIの進捗状況についてご説明させていただきます。資料は40ページをお開きください。下段の重要業績評価指標の進捗状況について。まず1つ目、将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合についてですが、平成28年度には数値の調査をしてお

りませんが、担当課では、これまで5年をかけて宮城県の指定を受け推進してきており、今後は県の指定がなくなるものの、継続して志教育支援事業を実施していくと検討しているようであります。2つ目の待機児童数については、平成28年度は12人という結果になりました。この要因については、年度当初の入所受入で定員に達しており、年度途中の転入による希望者が待機となっているようで社会動態に関する影響と対策が必要と現状把握しております。3つ目の国際交流活動への参加児童生徒数については、平成28年度は57人が参加しております。実績値の要因としては、これまでも継続してまいりました横浜独逸学園との交流、それからALTとの交流会の企画によるものと担当課では把握しております。最後のふるさと回帰支援センター等を活用したUIJターン数については、平成28年度の実績は1人となっております。実績値の要因としては、ふるさと回帰支援センター主催のフェアにて25名の相談を受け、そのうちの1人が地域おこし協力隊として本町に移住しております。

以上が、加美町版の総合戦略に基づく施策の進捗状況についてのご報告となります。続いて、平成28年度の地方創生交付金関連事業に関する事業報告をさせていただきます。資料は、平成28年度地方創生交付金関連事業に係る事業実施結果報告書①を参照願います。本報告書は音楽と福祉に関するまちづくりを中心とした事業を地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金を活用して実施した報告書となっております。

まずはじめに、1ページ、地方創生加速化交付金事業、音楽・農業・食をテーマとした移住プロモーション事業であります。本事業は、国立音楽院宮城キャンパスや農的暮らしに興味のある移住希望者向けに加美町を体感するツアーを開催し、移住推進につながるプロモーション業務を河北新報に業務委託をしながら実施したほか、FM仙台の放送を介した町政情報発信業務、音楽技能修得施設関連備品の整備を実施し、事業費が約5,736万円となっております。まず1つ目は、河北新報に業務委託をし、みんなで創る地域プロジェクトと題して取り組んでまいりました、移住プロモーション事業であります。本事業では、まずはじめに、地域の掘り起しということで住民を中心としたキックオフミーティングを開催し23名が参加し、その後、その魅力を町外の方に体感していただくツアーを季節ごとに年4回を実施し、合計78名の方に加美町を体験していただきました。

資料2ページをお願いします。ツアーなどの採録紙面については、5回にわた

り 15 段紙面を掲載し、採録動画は Youtube にアップして合計約 1,400 回閲覧されております。そのほか、facebook や LINE など SNS を活用した情報拡散や、専用ホームページの開設と、東北 6 県の新聞社 HP にバナー掲載、Google や Yahoo などのディスプレイ広告の活用など、ウェブ媒体による各種誘導方法を活用して、記載のとおりリーチとなっております。

ウェブや紙面以外にも FM 放送の電波を活用したのが、その下段にあります町政情報発信業務になります。本事業は、FM 仙台の音楽情報番組フリックモーション内にて、毎週火曜日午後 5 時 50 分から加美町の 5 分番組「音楽のまち加美町」を放送いたしました。合計で 53 回の定期放送のほか、133 回の 20 秒 CM を放送いたしました。

そのほか、旧上多田川小学校を改修して国立音楽院宮城キャンパスへ利用させる「音楽技能修得施設」関連備品の整備について交付金を活用して実施しました。

本交付金における重要業績評価指標については、移住相談件数、開校後の研修受入提携事業所数を掲げ、いずれも目標を上回っております。

資料 5 ページをお願いします。地方創生推進事業、「音楽と福祉のまちづくり」についてになります。本事業は国立音楽院宮城キャンパス周知に向けた交流事業や、開校に関する周知事業、音楽のまちづくりに関するシンポジウム、学校と居住地のアクセス環境の改善に向けたスクールバスの購入を実施しました。

まず国立音楽院交流事業については、ヴァイオリン製作、若返りリトミック講座、幼児リトミックコンサートを実施し、各事業の参加者から入学と本町への移住につながっております。

6 ページをお願いします。周知事業としましては、ポスターやパンフレット、フラッグなどを作成し、東北 6 県の高校への配布のほか、町内商店街にも掲出をいたしております。

音楽のまちづくり推進シンポジウムについては、将来的に音楽と仕事を結びつけるイメージが描けることを目的に開催し、387 名の県内外の学生を中心に参加いただいております。

アクセス環境の改善につきましては、これまでも審議会でご意見がありました学生の足の問題を改善するために、町でバスを購入し、運行を国立音楽院に任せることで町民バスとは異なり、自由度の高い運行が実現できるようにしております。

7 ページをお願いします。本事業の重要業績評価指標につきましては、国立音楽院の関係者の半分以上が本町に住所を有すること、空き店舗を活用した起業数、音楽療法を取り入れた福祉事業所数を掲げており、空き店舗の活用と音楽療法を取り入れた福祉事業所数はこれからの目標値であり、これといった実績はありませんが、4 月末現在における国立音楽院関係者の 65%—15 名が本町に住所を有しております。なお、その内の 13 名が開校に伴い本町に移住して来た方となっております。

8 ページをお願いします。事業の効果についてであります。本町では、音楽の力による地方創生を目指し、廃校を活用して音楽教育施設の誘致と音楽による本町への人の流れの創出、移住定住促進に取り組んでおります。

これまで、地方創生の交付金を活用しながらウェブや紙面、電波放送など様々なメディアを活用し、定期的に情報発信を行うことで、平成 28 年度は 1,255 名の方に音楽のまちづくりを体感していただきました。また、スクールバスについても入学生徒の約半数が登下校に利用しているほか、オープンキャンパス、町への参加など多岐に渡り利用されている状況にあります。これらを通して第 1 期生として 17 名が入学し、また途中で 2 名が入学し、合計 19 名の方が音楽を一生の仕事に結び付けるノウハウを学び、生徒講師を合わせて 14 名が本町に移住しております。

次に、事業実施結果報告書②をご覧ください。こちらは、加美町アウトドアランド形成事業として、日本最大級のアウトドア用品メーカー、モンベルと連携したアウトドアのまちづくりに関する事業に取り組みました。事業費は合計で約 1,948 万円で、補助率 10/10 の地方創生加速化交付金を活用して展開しました。

事業内容は、資料の小事業に記載のあるように、加美町のアウトドア資源の掘り起しと今後の誘客手法等をまとめたアウトドアランド形成調査業務、自転車等の人力移動によりその土地の気候や風土を楽しむ旅を提案するジャパンエコトラックの認定に向けた業務委託、アウトドアランドの形成に向けた検討委員会の開催、アウトドアを楽しむための備品の購入のほか、環境整備として標識の設置を行っております。本事業は、アウトドアを通じて交流人口の拡大を図る事業として計画し、重要業績評価指標も観光入込客数を掲げておりますが、平成 28 年度はその基盤整備に当たる年でもあり、残念ながら入込減という結果になっております。

しかしながら、本事業の効果として3ページをご覧いただきたいのですが、本事業を通じて、全国74万人いるモンベルさんの会員向けに新たに加美町のアウトドア情報を発信することができました。そのほかにも、町とモンベルさんとで包括連携協定を結ぶなどアウトドアだけではなく有事の際の連携強化を実現いたしております

また、先の審議会でもありましたが、地域住民の盛り上がりには欠ける内容では長続きしないのご指摘も頂戴しており、本調査業務を通じて住民への啓発と、本年度の交付金事業を通じてアウトドアやスポーツのまちづくりに関する浸透を図っていくための事業について交付金を活用しながら観光まちづくり協会さんを主体として実施していく予定となっております。

冗長となりましたが、平成28年度における加美町版総合戦略及び地方創生関連交付金事業の進捗状況についての説明は以上となります。

風見正三 会長： 計画全体は多岐に渡っております。特にこの2つの事業、アウトドアと音楽のまちづくりということで、今回半分くらい新しいメンバーになり、若いメンバーが増えたようですし、国立音楽院さんからも参加いただいております。加美町は色々なプロジェクトが進んでおりますし、どのように戦略的に進めていくのかを考えていくのが審議会の役目だと思っております。

今回は初回ということもあり一人ひとりに意見を頂戴したいと思います。その前に何か質問とかありますか。全体的な意見でも構いませんし、質問でも構いませんので皆さまから頂戴したいと思います。

それでは、今回はいつもと逆まわりで行きますか。初めての方は感想でも構いません。岸田委員からお願いします。

岸田紗季 委員： 感想になりますが、本当にたくさんの事業をやられていて、私自身もその中の1つの事業を利用して移住してきたわけでありまして。今説明を聞きまして成果としてまだまだ小さいのかもしれませんが、確実に前に進んでいるのだなと思えました。特に今年は国立音楽院さんが来て下さったことによって音楽フェスティバルにも参加しているのを拝見しましたが、若い人たちが音楽で町を盛り上げていく姿がすごく伝わってきまして、単純に良いなと思えましたし、自分も頑張ろうという気持ちになりました。

風見正三 会長： ありがとうございます。新しい動きが出てきたということですね。次に、伊藤委員お願いします。

伊藤嘉則 委員： 私は、言論の言の立場で発言させていただきます。国立音楽院さんですとか、モンベルフレンドタウンですとか、薬用植物の推進ですとか、加美町は本当にほかにはないもの、2万数千人規模の自治体としては、とてもマスコミとして取り上げやすく、フレーズとしても発信しやすい形で色々な戦略をされているかと思えます。個人的に仙台ですとか他の地域の記者さんとお話する機会も少なくないわけですが加美町よくやっているね、すごいねとよく声を掛けていただいております。これは本当に PR 戦略も含めて当たっている、ターゲットに届いていることだと思いますし、しっかり成果を上げているというのも実感しております。しかし、苦言を申し上げますと、私も河北新報さんを購読していますし隅から隅まで読んでいます。あとは、FMも視聴して町長も登場され普段と違う一面を楽しませて頂いております。ただ、今回、河北新報さんや FM さんとタイアップして進めて来られたかと思えますが一方で他のマスコミさんから、ある一社にお金を払って取り上げている内容に取材に行きにくいとの声があったのは確かです。敬遠されてしまう部分もあったのは否めないかと思えます。PR 戦略であったり、方向性というのは決して間違っていない、むしろ当たっていると思えますが、その方法として同じスタートラインでマスコミ全社でやらせていただければ尚一層、記事の媒体というのはお金のかけられない部分ですので、お金をかけずにできるのかなと思えます。

それともう 1 つ。以前の議事録を拝見して思ったのですが、どなたか委員さんの発言にもありましたように、対外的な、県内であったり県外に対する PR というのは加美町が他の自治体に先んじているものがあると思えますが、対中、住民ですね、高齢化率も影響しているのかもしれませんが、若々しいフレッシュな戦略というか打ち出しが多いと思えますので、年配の方とかは若い人たちがやっているんでしょという反応が見られます。音楽フェスティバルなんかも、僕も毎回楽しみにしているのですがそこまで前のめりになっていないご年配の方複数人からお聞きしています。音楽のまちづくりとは町長さんが常々話されているように小さい子からお年寄りまでみんなで楽しめるものです。これから取り組むアウトドアもそうですが、本当に老若男女みんなが楽しめて心も体も元気になれることが重要ですし、そういったことをもっともっと浸透させる取組みを町にはお願いしたいと思えます。

風見正三 会長： 情報発信は非常に重要なことです。行政としても SNS だけではなく効果を見ながらいろいろな媒体を検討していただきたいと思えます。次に、宮内委員お願いします。

宮内佳樹 委員： 新聞であれ、SNS であれ、ラジオもそうですが正直ラジオがどれくらいの人たちが聞いているのかということ。私はこの春東京から来たばかりで、

いまいち東北の人がどれくらいラジオを聞いて、どれくらい Youtube を見ているのか、新聞をどれくらい読んでいる方がいて、その影響力というのは正直未知数なところがあります。単純に Youtube の閲覧の状況なんかを見るとプログラム毎に 100～200 弱くらいというのは、内容は非常に魅力あるものですので、もっと見る人は増えるはずだと思います。おそらく中身の問題ではなく、Youtube の場合はもうちょっとひっきりやすいハッシュタグをつけるとか、それだけで一気にその 10 倍くらいの数字に伸びると思います。やっていることは今っぽいことをやっているのに、何でこれしか伸びないのかなというところがもったいないという感想です。

風見正三 会長： いわゆるソーシャルメディアには手法が問われます。ただそれに手を挙げるだけではなく、如何に見せるかということ。そこに戦略が求められます。今はツイッターなどやっているようですが、関連団体の皆さまの協力をいただきながら拡散していかないといけないと思います。facebook のいいね件数を目標にしていたかと思います。ソーシャルネットワークについては若い方といいますか、専門的な方を配置してやらないと思ったよりも効果が上がりませんのできちんと考えていただきたいと思います。続いて寺川委員お願いします。

寺川成子 委員： 私は前回からの引き続きになりますが、こういうのをやるよと聞いていましたので、やはり新聞やテレビ、ラジオを聞いてその情報が流れていたり記事になっているのを見ると進んでいるなという実感をもったのが率直な感想です。ただ、やはり記事を見るだけで何となく内容を聞いていたので形になってきているんだなというのは分かるのですが、具体的にどのくらい集まっているのか、アウトドアランド構想の方も近くのコンビニに旗が立っていたりするので進んでいるのだなという印象をもつのですが、それが具体的にどのくらい進んで、どのくらいの人を呼び込んでいるのかというのが見えてきません。まだ始まったばかりの部分でもありますが、やはりその広め方を分かっている人以外にも興味を引くような、くすぐるようなやり方がもう少しあった方が良いのかなと思います。

風見正三 会長： 前からの委員は理解いただいているかと思いますが、プロモーションについてはこの審議会に出てきた話であります。やはり、自治体は宣伝が得意とは言えませんので、メディアのプロモーションを入れてやろうということです。効果はまだ小さいかもしれませんが、仕組みができましたので、やはり欲はでてきますよね。行政も取り入れてくれましたので、こうなるとやはり皆さんのいいねが大事になりますので色々な形で関わっていただきたいと思います。それと今ラジオって何時からでしたっけ。(火曜日の午後 3 時半からです) お昼ですね。私は FM 仙台の第 4 火曜日の 9 時 17 分くらいから出演しているのですが、驚くべきことに結構聞いてい

るようです。毎月第 4 火曜日に出演していますのでよろしければ聞いてください。加美町の話などもしています。特にラジオは時間帯に左右されると思います。車の時間ですとよく聞いてくれるかなと思います。私からも FM 仙台に相談してみます。常務の児玉さんと気が合いますので話してみます。メディア戦略ですから、戦略的に時間帯ですとか、ラジオをやっているということを広めることが重要ですので、頑張っていきましょう。繰り返しますがラジオは結構聞いている人が多いです。時間帯にもよるのでしょうか、朝とか流しで付けているのではないのでしょうか。これはやっとな走り出しましたので効果出るまでやらないともったいないので。そうするとコンテンツが重要になります。国立音楽院もとても良いコンテンツになりますし、そういうアドバイスも出来ますので一緒に頑張っていきましょう。続いて清野委員お願いします。

清野仁子 委員： これまでの会議でも何度か申し上げてきましたが、加美町の良さについて皆さんからお聴きしてきましたが、私も岸田委員のお手伝いをいただきながらおはぎのお店を始めてもう 6 年になります。皆さんにはいつつぶれるのか、いつつぶれるのかと言われてきましたが、おかげさまでイベント等にも顔を出させていただいて完売の人気商品となっております。商工会の婦人部の方々がいきいきと取組んでおりまして、この会議にも商工会の方が参加されておりますが、やはり商工会婦人部の方々の活躍など素敵などころを取り上げて観光とタイアップしながら紹介していただければもっともっと加美町の底力を発信できるのではないかと思います。私たちが出しているおはぎも遠く石巻や仙台、山形の方からもお客様がいらっしやって宮崎の三嶋豆腐屋さんのお豆腐と油揚げも出しているのですがとても評判がいいです。やはり、加美町には知る人ぞ知る素晴らしい商品がありますのでそういったところも観光協会の方々や商工会の方々とリンクしながら発信して、一生懸命地に足をつけて頑張っているお店のおかみさんたちにスポットを当てていただきたいと思います。加美町でしか取り扱っていない商品もたくさんありますのでスポットを当てていただければいい宣伝にもなるかと思います。それから、私がいつも贈って喜ばれるは J A のケチャップとソースとカレーです。そういったものも加美町の隠れた人気商品ですので、これからも J A さんも一緒になっていろいろな食材を開発していただければと思います。特に、ケチャップとソースなんかを東京の方に贈りますとこういうのはデパートでも売っていないと喜ばれます。本当にすごい商品が加美町にはたくさんありますので、是非そういった商品の掘り起しをしていただき、発信していただけたらと思います。それともう 1 つ。薬草栽培に取り組まれています、地域おこし協力隊の方が商品開発を手掛けておりますクロモジ茶というのがあります、あれもすごい効能が秘められております。そういったものもありますの

で、よく研究されて世に出していただければと思います。

風見正三 会長： 全国区のコンテンツも重要ですが、地元のローカルコンテンツも重要ですのでメディア戦略に取り入れましょう。続いて伊藤委員をお願いします。

伊藤英一 委員： 観光まちづくり協会の伊藤です。ただいま清野委員から貴重なご助言をいただきました。観光協会といたしましてもやはり地域で地道に活動されている団体と連携して進めなければならないということで平成 29 年度の協会の事業方針にも挙げさせていただきました。本年度は 2 団体と取組んでいくとさせていただいておりますが、より積極的に一体となって進めなければならないと思っております。やはり一団体では力が弱いものですので、町しかり、関係団体しかりと思っておりますので今後もよろしくお願ひしたいと思っております。そのような中で加美町につきましても、全国各自治体と比べましても積極的に補助金や交付金等々を国に申請しまして独自の事業を有効かつ効率的に展開しているなというのが率直な感想です。私は古川市時代から大崎市役所に 40 年いましたが、どちらかと言うと市の方は自主財源で実施しておりますが、加美町は使えるものは使う、利用するものは利用するという視点で新たなまちづくりに取り組んでいると思ひ、そういう意味では大変感心しているところであります。私は今 65 歳ですが、加美町に来て 38 年、縁あってこちらに嫁いできましたが、加美町で 38 年住んでいますがこれまで加美町の良さというのを気にしてこなかった 1 人でございます。そういう意味では加美町に住んでいる人が加美町の良さに気付いていない方が多いのではないかと思います。そういう方たちが目を向ける、耳を傾けるようにしていくには新たな施策が必要になるかと思ひます。そういう部分に観光まちづくり協会の役割が、単独ではもちろん力不足ではあります、町とか町民の皆さま、関係団体とスクラムしながら進めていくのが大切かなとこの職に就いて改めて認識いたしました。観光の視点から言いますと、アウトドアランド、今年の 4 月からはジャパンエコトラックの認定ということで、全国のアウトドアの愛好家たちが来てみたくなる町に一步ずつ近づいてきているのかなと思ひます。ただ残念なのが、今事業展開している加美町のアウトドア、ジャパンエコトラック、あるいは平成 28 年の 2 月にモンベルフレンドタウンと登録しましたが、そういうのが住民の方々に浸透していないというのが残念かなと思ひます。私自身町のことを広報等々で周知を図ろうとしておりますが、ややまだ足りない。それがいろいろな会議の中で聞こえるもので、一生懸命事業展開しているのですが町民には届いていないというのが現状ですのもったいないなと思ひます。来ていただくためには町民の方がアウトドアの知識や楽しさをしていただかないと、それが町外から来ていただいた方へのおもてなしにも繋がっていかないのかなと思

いますので、それらを盛り上げていくために頑張っていかななくてはと思っております。ただ心配なのは、加美町では補助金や交付金で多くの事業を展開しておりますが、これらの補助金や交付金が無くなったときには同じ事業を自主財源で継続していただけるか非常に心配なところです。民間の協会としては良い事業は自主財源で展開していただけると地道な活動から必ずや実を結ぶものと思っております。

風見正三 会長： 観光まちづくり協会というのは、繋ぐ役割だと思っておりますので、それらを集約して事業を展開していただければと思います。続いて跡部委員お願いします。

跡部香名 委員： 今のまちづくり協会さんの発言とも重複しますが、率直な感想として発言させていただきます。加美町として様々な事業を発信されているなと思いますが、地域住民や商店街にどれだけ浸透しているかということに疑問を感じます。また、我々は商工会ですからそういうイベント等々をどのように商売に活かしているか、活かしていく方法と言いますか、私たちに向けられている課題も感じております。実際、様々なイベントに商工会携わっている中で、商店街にお願いに歩きますと、町の方々は一生懸命やっているのを理解していますが、実際、商店街の方たちは正直迷惑に近い表現も足で歩くと多々聞こえておまして、折角こういった事業を補助金も使いながら実施していますので何らかのメリット性、具体的にこうなりますよというのを示していければ町全体としてもっと盛り上がるのではないかと思います。私どもは全国展開事業としてコミュニティビジネス事業を国の採択を受けて本体事業に取り組む2年目になりますが、町の駅を町内11カ所に設置しまして着地型観光交流というのでしょうか、こういうのを情報発信の拠点として有効に使っていこうと、今年は本格的に取り組んでまいります。そういう意味でも連携を深め、今後の発展に何かお役に立てればと思っております。

風見正三 会長： 地域の振興が一番大事で、地域の方と連携してやらないと持続可能な事業にはなりません。それには相互の歩み寄りが大事でしょうし、地域の色々なプロジェクトにも参加していただいて、地域の方々が総合戦略を言えるくらい、優しいパンフレットって作りましたっけ、町民の皆さんにもお示しいただければと思います。特に、商工会は地域のエンジンになり得る機関ですから、よろしく申し上げます。それでは、後藤委員お願いします。

後藤利雄 委員： 冒頭にロックの話をしたもので、ビートルズというのもいわゆるロックだったのだらうと思います。当時の若者には大いにうけたと思いますが、年寄りには何のこっちゃと、何とかあきこさんがイエローサブマリン音頭を踊ったもの

でイエローサブマリンって年寄りでも分かりますよね。それと、お宝鑑定団のヘルプの音楽はうちのばあちゃんでも聞いたことあると話しています。非常に抽象的で申し訳ありませんが、こなし方が重要なのだと感じました。町長の話も何回も聞きましたし、A3の資料にあるようにやっていること、イカノエってこれをまとめたものですよね、やっていることは私も非常に賛成であります。農協としてもFEC自給圏(フード、エネルギー、ケア)のことを最大の目標にしましょうと話をしております。それをもつという、Eの部分ではeducatuion教育、emvironment環境、Cの部分ではcure医療、cuulture文化、communication交流だったり、それを自給しましょうと、協同組合としてはそこのところを一生懸命やっていくべきと考えております。そのことがまさにこの3つの中に書いてあるなと思います。これを具体化していく必要があると思います。1つだけ、移住の話ですが、移住って農協も農業後継者も含めて何とかしなくてはと思っておりますが、それだけでは中々難しいと思っております。結局、地域に住むわけですから、連携をもうちょっと一緒にやればといいなと思っております。その時に、どうしても有名な所ばかり見ていると、CCRCで有名なシェア金沢なども視察していいなとも思いますが、とてもあれだけのものはできませんし、それからサービス付高齢者住宅みたいなものもいいのか、いわゆるリタイア世代の移住を考えるのか、あとはちょっとした援農みたいな少しだけ来て手伝うみたいなものいいのか、移住ということに対して色々なステージがあって、段階ごとに様々な手法を使っていかなくてはならないという思いもあります。その辺の所を上手く組み合わせられたらと思っております。農業だけではなかなか難しいもので、地域全体で引っ張れるようなことを考えていけたらと思いますのでよろしくお願いします。

風見正三 会長： 地産地消のことを最近では持参自消ともいいますよね。地元のしっかりとした資源が循環する仕組みが地域像の大事な要素になりますので、先ほどもありましたが地元のコンテンツを含めて循環する仕組みをつくらないといけないと思います。これは加美町の総合計画にも入っていることです。これをどうモニタリングして進めていくか、これからは優先順位というのも大事になってくると思います。それでは大場副会長お願いします。

大場 幸 副会長： 私からは2つ申し上げます。先ほどのKPIで小学生の肥満傾向云々とありましたが、町としては目標に近づいていると数字的には出ておりますが、具体的に言いますと小学校は加美町に9校ありまして、その内に学校間格差があります。資料には大人の生活習慣が子どもに影響を与えるとあり、確かにそれはそうかもしれません。肥満の親の子は肥満の子が多いです。運動会を見に行くとそれがよく

分かります。なぜ私が地域間格差があると申し上げたかという、1つはスクールバスです、要するに子供たちが歩いて通学しないということです。スクールバスの無い学校は意外と少ないと思います。スクールバスに着目していただきたいと思います。少子化で生徒が遠隔に通うためにスクールバスが必要になりますが、岩手県のあるところではスクールバスの乗降場所を1km先の安全な場所にして、学校まで歩かせているそうです。また、ある学校では朝早く集めてランニングさせたり様々な策を講じているようです。加美町ではスクールバスを利用している学校に肥満が多いということをお話したいと思います。2つ目は、人口減によって子どもたちも大分減っていると思います。町づくりの裏にあるのは人づくりだと思います。その人づくりたる子どもたちがどれだけ減っているのか、どれだけ的人数であるかというのを皆さんにお話させていただきたいと思います。(以下の表を参照)

H29.6.1 現在 加美町人口：24,004人

	人口	小学生			中学生			小中学 生合計	人口比
		生徒数	人口比	対前年	生徒数	人口比	前年比		
中新田地区	12,741	621	4.8%	+1人	339	2.7%	-4人	960	7.8%
小野田地区	6,363	292	4.5%	-9人	165	2.6%	-8人	457	7.2%
宮崎地区	4,900	214	4.4%	-5人	99	2.0%	-9人	313	6.4%

このような数字を見て、中学校では大変大きな問題が起きています。宮崎中学校では全校生徒100人切っております。それで部活動が成り立たなくなっております。野球部やサッカー部を作るとなると人が足りません。1学年1クラスですので、加美郡内で越境している状態です。部活のために。隣の色麻学園は小中一貫校ですバレーボール部がありません。バレーボールをするために色麻から加美町に越境しています。中新田中学校に。この部活をやりたいのだけれども、その部活が中学校にないと、これが年々激化していくのではないかと危惧しております。やはり将来を担う子供たちがどのようにしていかなくてはならないか、ここに大きな問題があると思っております。移住定住には子どもたちが触れ合っ増えていくことも重要だと思います。地域の潤いには子どもたちが必要ですから。加美町提案型事業で商工会がかみ恋をやっているかと思いますが、ああいうのはもっともっと力を入れて、町民からもやっていますよとか聞きますが、農協さんでも農業の担い手だけではなく、やはり町を挙げてコラボレーションしてやっていく必要があります、若い人が住みつく町にしていかなくてはと思います。何らかの策を講じなければ、小学校も小さくなっていき、遠隔地からの通学となれば先程申し上げたように肥満が増えるのも当然かと

思います。運動していませんから。スクールバスの都合で学校にいる時間が限られてしまいます。そういった難点がございます。義務教育を受けている子どもたちの実態を述べさせていただきました。これらを参考に子どもたちにも各委員さんから知恵をお借りして、委員会に戻った時にこのような話がありましたと報告し、良い人材を育てていきたいと思ひます。

風見正三 会長： 今日いただいたご意見は事務局でしっかりと受け止めていただきたいと思います。今度開くのが 10 月から 11 月とありますので今日発言足りない点とかは事務局にお伝え頂ければと思ひます。特にプロモーションについてはスタートしたばかりですので、やはり成功させていきたいと思ひますし、総合戦略を実現させることが加美町の大きな目標の 1 つになっていきますので重ねてよろしくお願ひしたいと思います。それでは、議事をこれくらいにしてその他を事務局からお願ひいたします。

熊谷 課長： 貴重なご意見、ご提言ありがとうございました。その他についてであります、風見会長からもありましたように 10 月から 11 月に開催したいと思ひます。内容は国立音楽院宮城キャンパスのご視察等々を考へております。よろしくお願ひします。それでは本日の議題は全て議了となりましたので、閉会にあたり大場副会長からご挨拶を頂きたいと思ひます。

大場 幸 副会長： 皆さまお忙しい中ありがとうございました。今日初めて委員になられた方、前回から継続して委員をされる方、どのようにお話しすればよいのかなと思ひながら出席された方もいるかと思ひます。素晴らしい加美町をつくるが大前提かと思ひます。こうやって皆さんで町民の声を聞きながら反映させていくこと、一步一步前に進むこと、これをやったからすぐ変わるものではありませんので 1 つ 1 つ積み重ねていくのがまちづくりの第一歩かと思ひます。大変お忙しい中審議いただきありがとうございました。これで閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

— 午後 4 時 15 分 閉会 —